

とばたの風

第43号

2013年11月発行

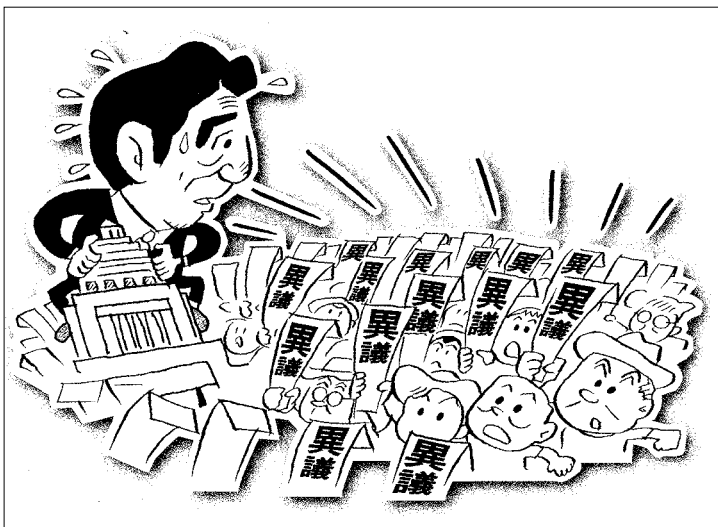
発行責任者
配川 寿好

北九州市戸畑区
天籟寺1丁目1番15号
Tel.873-3735
(部内資料)

今でも少ない年金減らすな！

怒りの声を安倍内閣に

年金者組合が全国10万人の不服審査請求呼びかけ



際限のない引下げ

今年10月分から年金の1%削減が実施されます。これから3年間で2・5%削減していくという政府に対し、「道理のない年金削減は許さない」と、全日本年金者組合が審査請求を呼びかけています。そもそも、なぜ今年金の引き下げなのでしょう。この10年来税、国民健康保険料、介護保険料は上がり続けています。アベノミクスによる金融緩和、円安によって食料品や灯油など物価は値上がりして

います。

2・5%削減の後には「マクロ経済スライド」により、毎年1%の引き下げがたくらまれており、限りない年金引下げへの入り口です。

道理のない 高齢者いじめ

こんな高齢者いじめの政策に、どんな道理があるのでしょうか。

25年以上の長期間、毎月保険料を払い続けてやっと受給に至る年金です。これで「老後の安心」を保障するのは国の責務でしょう。社会保障の充実をいうのであれば、消費税の増税、年金引下げで国民を苦しめるのではなく、経済的な理由で保険料を払えなかった人たちの救済のために最低保障年金を創設する



年金者組合戸畑支部

書記長 小田 恭司

戸畑からも声をあげよう

苦勞して家族を守り、日本の戦後復興を支えて頑張ってきた高齢者にとって、年金は「いのち綱」です。それを容赦なく削る安倍内閣は許せません。戸畑からも、年金削減の取り消しを求めて、不服審査請求書を提出しましょう。

不服審査請求説明会

日時 12月13日(金)午後2時

※この日は年金支給日です。

会場 ケアハウスらいふ戸畑

年金手帳又は基礎年金番号がわかるもの及び印鑑(認め印可)を持ってきてください。



どこまで本気か？



アメリカ大好き純ちゃん
気は確かか？

ヨイサ!

先日ある集会での25歳の女性の発言。「短大を出てやっと見つけた就職先で、もらう給料は10万円。それでも高いほうで、私の周りには5万円、7万円という低い収入しかない若い人がたくさんいます」▼回復の兆しのない不況は、多くの国民に強い疲弊感と閉塞感をもたらしている。アベノミクスはこの不況を打開する対抗策として宣伝され、そこに多くの国民が期待を抱いた結果が、あの参院選の自民党圧勝であったのだろう▼では、アベノミクスで景気は回復し、若者に希望の光りがさすのだろうか。答えは明白だ。自らの生計を成り立たせられないほどの低賃金を据え置いたまま、消費税を8%に上げるといふのだから、未来が開けるはずがない▼そんな子どもたちの生活を支える親世代の年金を切り下げ、あげくに医療も介護も国は面倒を見ないので、お互いの「自助」「共助」でやり過ぎなさいと、社会保障の変質を宣言する政府▼ここまでで、アベノミクスにすがっている国民はいるのだろうか。消費税増税に頼らない景気回復の道を共産党が示している。是非ご一読いただいて、一緒にこの国の未来を切り拓いてほしい。



急がれる老朽・危険家屋への対策

ています。



北九州市会議員 荒川 徹

除却費用一部助成制度の周知と改善を

な手が打てないのが現状です。

相談窓口をわかりやすく

老朽化した建物の管理は建築都市局、火災予防や安全対策は消防局など、市でも担当が複数にまたがっているため、担当窓口を明確化して対応することが必要です。市は関係局で検討委員会をつくり、現在今後の対策について検討し

火災や倒壊、非行の温床など問題多く

火災や倒壊による建物周辺の住民への被害を防ぐため、市ではその対策に乗り出そうとしていますが、個人の財産であるために、なかなか有効

身近に必要な本屋さん

柴田 憲良さん (千防在住 50歳)



戸畑で80年以上続いている老舗の書店「金春堂」3代目社長の柴田憲良さん。「飲み屋のおねえさんによく褒められる」という、素敵な笑顔で迎えてくれました。

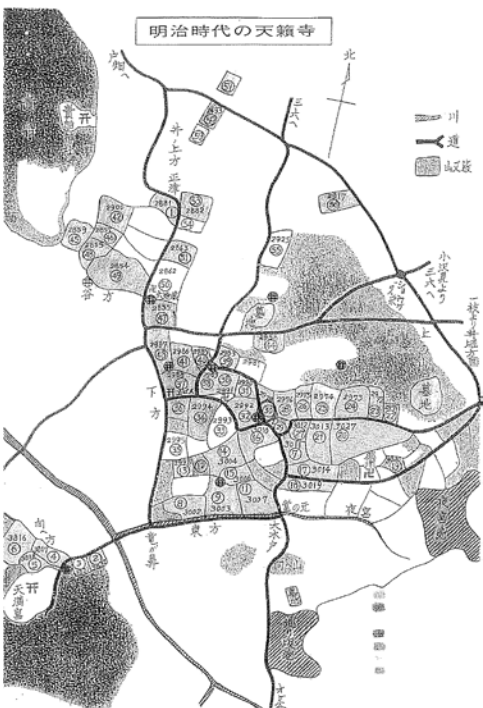
柴田さんが金春堂を継いだのは29歳の時。それまでは東京で信用金庫に勤めていました。本屋を継いで難しいなと思ったことは、利益を出すこと。「サービスが先、利益は後」というのがポリシーですが、本屋業界は1冊の万引きが命取りになるというほど厳しい世界です。サービスと利益のバランスは常に悩みです。

大型の書店が次々できる中で小売りの本屋さんが生き残っていくのは大変です。ピーク時には7～8軒あった戸畑の本屋さんも最後の1軒になりました。金春堂は「機動力のあるフットワークの軽い本屋さん」を売りにして、北九州市内の学校や図書館に本を卸したり美容院や病院、お客さんの家にも本を配達しています。戸畑の中でなんとか生き残っていき

たいというのが柴田さんの思いです。お客さんの層が高齢化するなか、金春堂のような本屋さんが身近に必要とされています。「この時期によく売れるのはカレンダーや家計簿」と地域の人の要求を押さえています。

政治にのぞむことは?という質問に、「国民目線を忘れないうようにしてほしい」とのこと。お客さんのことをいつも考えている柴田さんらしい答えです。

趣味は、『日曜日にゆっくりスーパー銭湯に浸かりに行くこと』、だとか。



地名に秘められた戸畑の歴史 ⑩

戸畑郷土史会会員 安田 潤児

天籟寺から消えた通称、門名について

私の知っている天籟寺から多くのものが消えていった。明治5年(1872年)頃、安田家28戸、林家15戸くらいであった。昔のことであり、名字も大事であるが、生活に直接関係があるのはどこの誰かということ、それがすぐわかるように、集落の地形や場所からついた通称である門名が生まれた。

筑前国遠賀郡戸畑村の戸籍からと明治時代の地図から考えられることは、通称、門名も天満宮(菅原神社)からスタートしているように考えられる。天満宮と天籟寺大山笠を中心に行事を行っていたようなので、番屋敷(明治時代の戸籍の表記) 方法)もここを最初に二番が始まっている。天満宮の向い側をムカイ、天満宮から東方向にある家をヒガシ、村人が大山祇神社で行っていた宵宮(よいのみ)からヨミヤ、天籟寺で一番高い所がソラガタ、ウエガタ、オクと続き、大きな屋敷があったのかヤシキ、住人達が多く集まっていたイドバタ。この家の前は天籟寺の中心に位置する所で、現在火除け地蔵がある。

少し下った所にキド、入り江があり港だったショウズ、唯一谷があった所がタニ、その下にシタガタ、伝統ある天籟寺大山笠の宿であるインキヨなどが通称、門名である。それを名乗ることによって、どの誰かすぐに分かったと思

う。また、この門名から天籟寺の地形が良く分かる。ヨミヤからソラガタ、ウエガタ、シタガタ、ショウズ、キドと峠を下って港に出る少し高台に天満宮があり、風光明媚な所だったことは間違いない。

戸畑区後援会恒例

第28回

ぶどう・梨狩り

バスハイイクで楽しくすごしました(9月1日)



くすりのことなら

ふれあい薬局戸畑店

戸畑区新池1丁目5-30

☎ 093-881-2332